2024年度 春季 ICYE Japan海外ボランティアプログラム 参加報告書

GLIDEにて食事の配給

FOODBANKで食料配

学童で子ども達と一緒に本を読んでいる時

SFSUで留学アドバイザー・青島さんと交流

学童で現地の子に算数を教えている様子

1. 参加目的

一つ目の目的は語学力の向上と意志力の強化。語学力の向上に関しては、アメリカに行きボランティア先やホームステイ、店で英語によるコミュニケーションを行うことで英語力が成長すると考えた。意志力の強化は、人生初の海外という自分のcomfortable zoneから出たところでの活動を通して強い意志力を持てると考えた。二つ目の目的はアメリカの日本と異なった文化を実際に見て感じること。食生活や交通機関、人同士の接し方など現地でしか体験できないことがあり、それを見て感じることで自分の価値観、考え方が変わると考えた。三つ目の目的はアメリカの社会福祉政策の一部を体験して学ぶこと。アメリカの低所得者を支援する活動に参加することで、アメリカの社会福祉の現状や日本との違いを学ぶきっかけになると考えた。単にインターネットで調べるよりも実際に体験した方がイメージが湧きやすく、学ぶモチベーションも増すと思った。

2. ボランティア実習内容について

ボランティア活動先は主に三か所で、SF・Marin Food Bank、Glide Memorial、Boys and girls club Tenderloin Clubhouseである。一つ目のSF・Marin Food Bankでは貧困で苦しんでいる人々に野菜・果物・缶詰・乾物・ドリンクなどの食材や調理した食事を配給した。活動場所は様々であり、屋外で実際に利用者に配給をすることや、室内で配送向けに段ボールに食材を詰めることもあった。二つ目のGlide Memorialでは低所得者に向けた食事サービスを行った。食事の配膳、盛り付け、片付けを行った。三つ目のBoys and girls club Tenderloin Clubhouseでは、現地の子供達と一緒に工作やボードゲームなどで遊んだり、読書、生徒の宿題のサポートを行った。

3. プログラムを通して学んだこと

学んだことの一つ目は、「自分」を強く持つことである。これには二つの意味がある。一つは人生のDriver's seatに座っているのは自分であり、自分が行動を起こさないと何も変わらないということである。二つ目の意味はクリティカルシンキングを行うことだ。目にした情報や聞いた情報を鵜呑みにするのではなく、それに対する自分の考えを常に意識する。学んだことの二つ目は、何事に対してもパッションを持って取り組むことである。そうすることでパフォーマンスが上がり、また意識的に取り組んでいるため学びを得るチャンスが増える。学んだことの三つ目は、メガネを外せる能力である。メガネを外せる能力とは異なるバックグラウンドを持った人と接する時に、日本人という自分のバックグラウンドから人を見るレンズを外せることである。自分の中で形成された人や物の見え方から一度離れ、フラットな視点で物事を見つめ直すことである。

4. ボランティアプログラムを終えての感想

日本とアメリカで異なる部分は多くあった。一つ目は人同士の接し方である。知らない人同士でも挨拶は当たり前で、バス停で話しかけられることがあり、日本ではあまりないことなので驚いた。また人のコネクションが広く強いと思った。例えば自分の趣味を話したら、それに詳しい人を紹介してくれるなど、人の繋がりが強いと思った。二つ目の日本との違いはスポーツに対する熱量である。地元のチームへの愛着が強く、スポーツチームの服を着ている人を街中で多く見た。自分がアメリカに行った日は丁度スーパーボールの日で家族全員で試合観戦をしていた。性別年齢問わずみんながスポーツを応援して楽しむ文化は素敵だと思った。